三嶋権現神社の創建

明治２４年高座郡松林村香川の新倉家に生を受けた新倉和吉は農家の次男で若くして奉公に努めた。成人となり茅ケ崎の伊藤家に長くお世話になり業務全般をつとめ番頭役として奉仕した。後に認められ伊藤里之介の実弟水谷房吉家の養子となり水谷和吉となったが水谷家は家族に縁がなく房吉は水谷家を和吉に譲り伊藤家に復縁した。和吉も水谷家として独立し伊藤家の業務を続けることになった、特に当時町長を務め茅ケ崎の将来のためにと考え白砂青松の地として著名人の別荘を招いた。留守中の土地建物等の管理は主に和吉の役目として勤めたため建築技術を習得することができた。

のちに結婚し明治４２年に生まれた四女の歩行困難を案じていた和吉が夢枕に「権現様をお祀りしお願いするように」とのお告げを受けたため自らの畑地にお社を建て「高根権現」様にお願いを続けたところ間もなく快癒した。権現様の願いあらたかを耳にした人の参詣が多く見られる様になった。

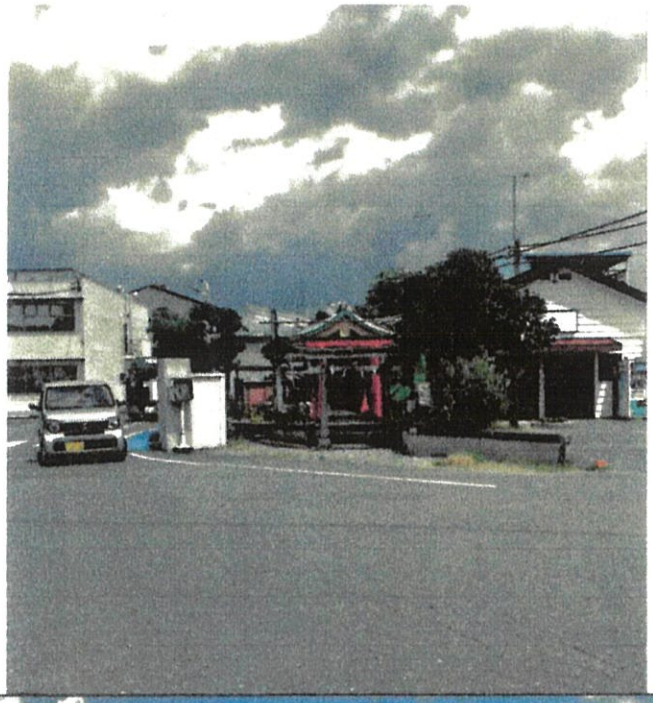
関東大震災に会いお社は全壊に近い状態になり再建に悩みつつ３人の友人に発起人を頼み和吉の実家になる伊藤里之介に祭祀者をお願いし関係者一同で近郷近在に建築資金の奉納をお願いしたところ２５０余人の協力を得て昭和２年１０月再建の上棟が行われた。社殿の落成後伊藤の発案により権現様の元祖東照大権現徳川家康を祀る三島大社より御霊を受け「三嶋権現神社」と名称を改めた。

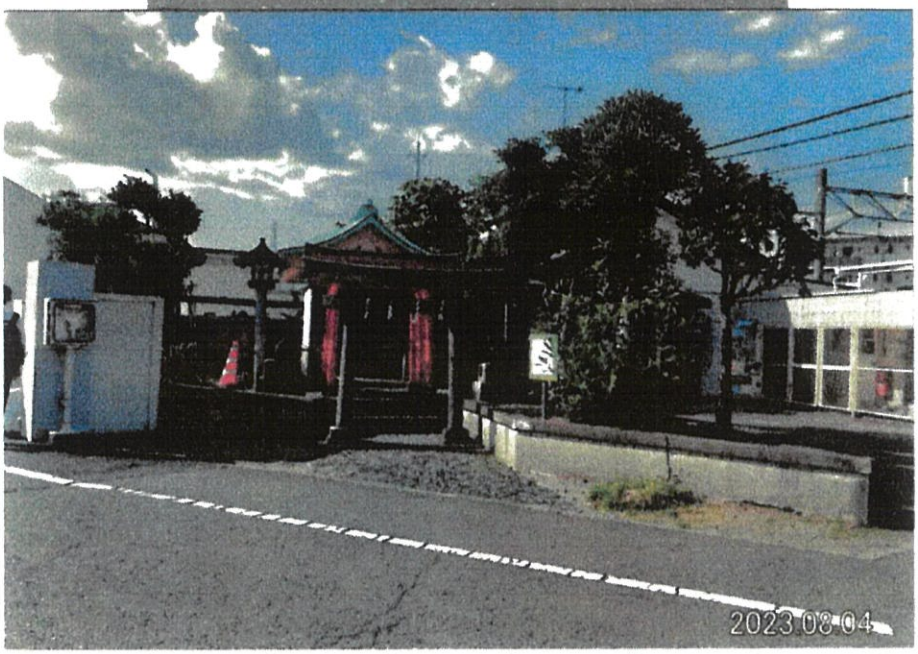
社殿は小さいが前庭があり毎年例大祭には舞台で神楽、芝居等演芸が奉納された。

境内には朱色の鳥居が奉納されていますが大事なお願いの御礼として満願鳥居が並んで建てられています。

昭和３１年東邦チタニウム株式会社の工場拡張時一本松から北茅ケ崎駅並びに遷座したことで参詣の方も大変多く来られます。

令和６年老朽化と耐震性に対応して屋根改修工事を行い新しい装いとなりました。




2023 08 04

2022 04 23